

第 2 期基本計画におけるリーディング・プロジェクトについて

【第 1 期基本計画における位置付けについて】

(第 1 期基本計画より)

ここに掲げるプロジェクトは、私たち市民の間に「ふるさと草津の心（シビック・プライド）がおのずから生み出されるよう、重点的・分野横断的な視点から設定するものです。すべて、基本構想期間を通じて草津市のまちづくりを先導・けん引するものであり、同時に「協働のまちづくり」の気運をさらに高めるために重要な市民共通のテーマです。

各プロジェクトには、第 1 期基本計画期間において成果が強く望まれる施策・事業で、その波及効果が期待できる内容を含めています。各施策・事業を強力に推進するに止まらず、施策・事業間の相乗効果を最大限に高める工夫を図っていきます。

※リーディング・プロジェクトは基本構想ではなく、基本計画に位置付けられていることから、第 2 期基本計画策定における見直し対象に含まれる。

【課題について】

1. リーディング対象事業としての位置付けにより、他事業等への波及効果等を期待したものの、個別事業の進捗や成果には様々な要素が影響を及ぼしていることから、リーディング・プロジェクトとして当初期待した波及効果については不明瞭であり、他市においても同様のリーディング・プロジェクトの設定について見直しの動きがある。
2. 38 のリーディング対象事業が設定されており、内容が総花的で選択と集中がなされていない。また、各対象事業の関連事業の範囲が明確に設定されず、波及効果を示す成果指標の設定が困難であったことから、リーディング・プロジェクトとして位置付けたことによる波及効果を明確に測ることができない。
3. 個別事業に対する重点予算配分の方針は、財政状況等を踏まえたうえで、各年の予算編成方針や財政運営計画に位置付けていくべきであり、中期的なまちづくりの方針を掲げる基本計画に個別の重点事業を位置付けることはふさわしくないため、基本計画において重点方針を示す場合には、分野や基本方針レベルで示すことが望ましい。
4. 総合計画の施策体系とは別に、分野横断的なリーディング・プロジェクトとして別体系を設けることは、かえって総合計画の施策体系そのものを複雑にし、非常に分かりにくいものとなる。

【第 2 期基本計画における考え方(案) について】

●第 1 期基本計画の中で見えてきた課題への対応を検討するにあたっては、リーディング・プロジェクトの有効性を改めて検証し、仕組み自体に関する課題を解決する必要があるとの観点から、以下の考え方に基づき修正案について検討を行う。

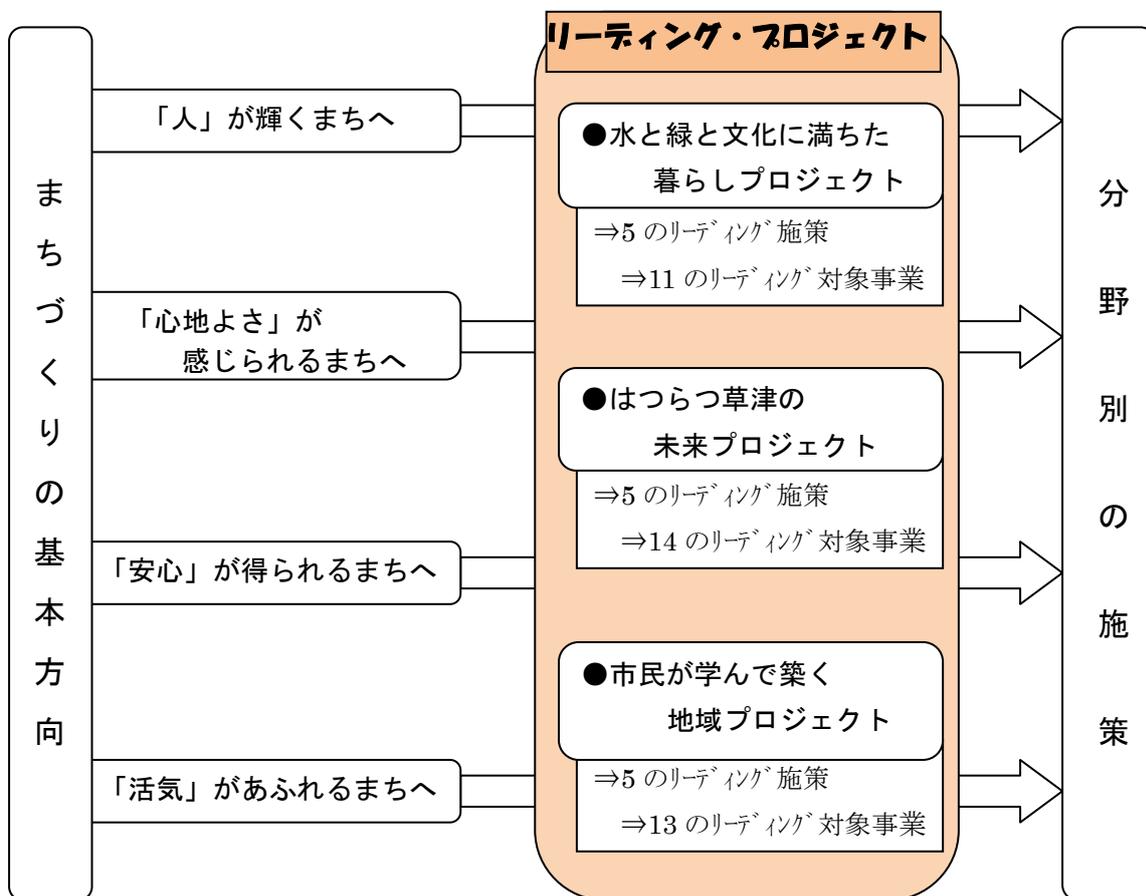
1. 総合計画の施策体系をより分かりやすいものにするとともに、第 1 期基本計画のリーディング・プロジェクトが想定した本市のまちづくりを先導・けん引する役割を強化し、市政の重点化の方針を明確にするため、第 1 期基本計画における 3 つのリーディング・プロジェクトから基本方針レベルでの絞り込みを行い、市政の重点方針としての新たな「リーディング・プロジェクト（重点方針）」を位置付ける。
2. 「リーディング・プロジェクト（重点方針）」は第 2 期基本計画期間中の統一テーマとして重点的に推進する。
3. 「リーディング・プロジェクト（重点方針）」は第 2 期基本計画期間中の予算編成方針等への反映を行っていく。

【第1期基本計画における考え方】

現行（第1期基本計画）

市民の間に「ふるさと草津の心（シビック・プライド）がおのずから生み出されるよう、基本構想期間を通じて草津市のまちづくりを先導・けん引するものとして、重点的・分野横断的な視点から設定している。各プロジェクトには、第1期基本計画期間において成果が強く望まれる施策・事業で、その波及効果が期待できる内容を含めている。

現行イメージ

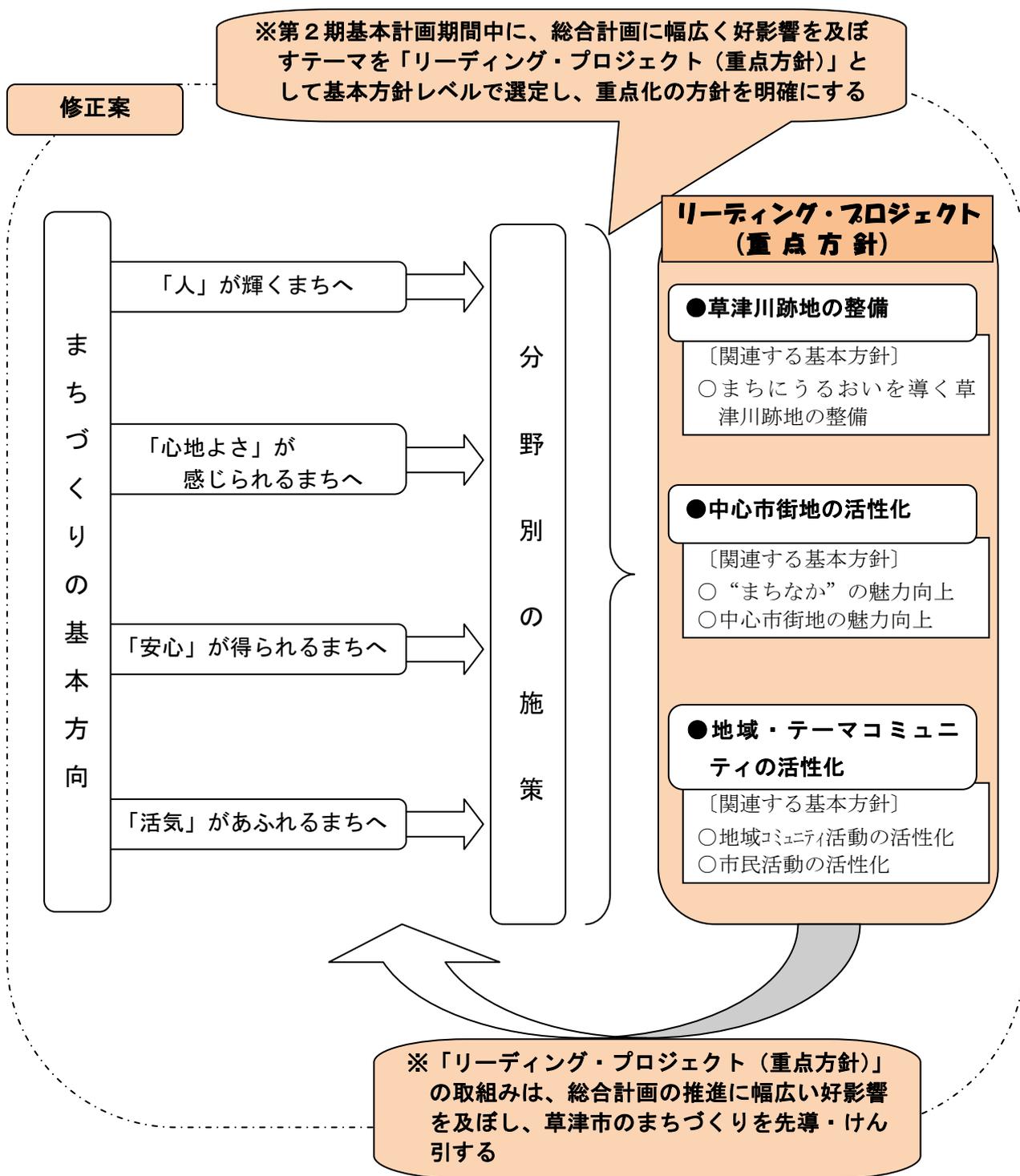


※各リーディング・プロジェクトには、リーディング施策、リーディング対象事業が設定されており、総合計画の施策体系の中に分野横断的な別体系が存在するような構造となっていることから、位置付けがわかりにくい

※リーディング・プロジェクトには15のリーディング施策、38のリーディング対象事業があり、総花的で選択と集中がなされていない

【第2期基本計画における考え方（イメージ案）】

修正案 …第1期基本計画における3つのリーディング・プロジェクトから、基本方針レベルでの選択と集中を行い、新たな「リーディング・プロジェクト（重点方針）」を設定。



第5次草津市総合計画第1期基本計画 リーディング・プロジェクトの取組み状況について

◆水と緑と文化に満ちた暮らしプロジェクト

リーディング施策	リーディング対象事業	第1期計画期間における取組み概要・成果実績・環境変化・今後の課題 【◇取組み概要・成果実績、◆環境変化・今後の課題】	目標像	指標名	単位		H21	H22	H23	H24	H23実績値／ H24目標値(%)
市民文化の拠点づくり	文化活動拠点等整備事業	◆H21年度に策定した（仮称）市民文化の森基本計画は、しが県民芸術創造館が県施設であることを前提としているが、同館について示される県の方向性を踏まえる必要があること、さらに計画施設のうち2施設がすでに他所へ移転していることから、（仮称）市民文化の森の整備を保留しており、計画の見直しが必要である。今後必要となる整備施設について検討していく必要がある。	市民文化活動が活発になる！	文化フォーラムへ協力する施設や店舗・サークル等の補助団体の数	団体	目標値	—	5	10	15	113.3%
						実績値	0	15	17	—	
市民文化を未来につなぐ活動への支援	（仮称）芸文祭「くさつ」開催事業 （→くさつ市民アート・フェスタ開催事業）	◇くさつ市民アート・フェスタとして事業を実施。旧東海道沿い商店街において市民の芸術作品の展示、音楽の演奏会を開催し、文化芸術に身近に触れる機会を提供した。 ・参加団体：【H22年度】10団体、【H23年度】13団体 ◆展示・出演者は増加傾向にあるが、市民の方への参加をさらに促進できるよう、周知方法の工夫や、ワークショップなどから一層文化に親しみやすい事業展開を進めていく必要がある。	専門的な人材を確保する！	「ゆうゆうびとバンク」への登録者数	人	目標値	—	410	420	430	49.3%
	市民文化芸術活動支援事業	◇市民文化祭、市民音楽祭の実施により、市民の文化芸術活動や創作活動を奨励するとともに、多くの市民に文化芸術に触れる機会を提供した。 ・【市民文化祭】（入場者数）：【H22年度】1,100人、【H23年度】1,200人 ◆芸術・文化の振興については、市民がより親しみやすく、参加しやすい事業として、若年層が文化・芸術に触れることができるような事業展開を行う必要がある。				実績値	397	293	212	—	
	地域ポータルサイト整備事業	◇「くさつ情報ネット」（H14年度開設・H22年度リニューアル）、企業情報サイト「あうんです！」（H22年度開設）、子育て応援サイト「ぼかぼかタウン」（H23年度開設）等の地域ポータルサイトをそれぞれ開設し、市民による活発な情報コミュニケーションが展開されるよう努めた。 ◆市ホームページについては、アクセス件数が増加するようリニューアルすることも視野に入れ、さらなる工夫を図ることとする。									
草津川廃川敷地を活用した憩いの空間づくり	草津川跡地利用構想促進事業 （→草津川跡地整備事業）	◇草津川跡地の整備を進めた。 【H22年度】 ・検討委員会や市民説明会により草津川跡地利用基本構想の策定に向けた取組を実施した。 【H23年度】 ・草津川跡地利用基本構想を策定 ・草津川跡地の土質調査を実施 ・草津川跡地利用基本計画の策定に向けた取組を実施 ◆今後、草津川跡地に持続可能なにぎわい空間を創出するため、コミュニティづくりの場や市民活動の場とする仕組みづくりが必要であり、市民参画の手法や運営管理の手法を検討し、結果を情報発信していく必要がある。	草津川廃川敷地の利用が始まる！	跡地利用計画に基づく事業の着手	%	目標値	—	30	60	100	50.0%
						実績値	0	30	50	—	

リーディング施策	リーディング対象事業	第1期計画期間における取組み概要・成果実績、環境変化・今後の課題 【◇取組み概要・成果実績、◆環境変化・今後の課題】	目標像	指標名	単位		H21	H22	H23	H24	H23実績値／ H24目標値(%)
「くさつエコ・ミュージアム」の展開	環境学習推進事業	◇環境活動に積極的に取り組む子どもと大人を育成するため、小・中学生を募集し大人とともに体験型学習を実施した。また、指導者養成講座として、教育研究所と共催しながら教員等の指導者を対象にした研修講座を実施した。 ◆今後も参加者数の維持に努める。	「くさつエコ・ミュージアム」の認知が広まり活用される！	環境学習ができる場所数	か所	目標値	—	7	6	7	71.4%
	地域環境活動支援事業	◇地域と連携して環境学習に取り組む小学校の支援を行った。 【H22年度】4校 【H23年度】4校 ◆引き続き、環境学習の推進に努める。				実績値	6	5	5	—	
	くさつエコ・ミュージアム活用事業	◇琵琶湖岸域で環境学習ができるエリアを「くさつ・エコミュージアム」と位置付け、環境学習等の活動が活発化していくための仕組みづくりとして、見学会や各種イベントの実施および周知を行った。 ◆施設等の閉鎖や統廃合等があり、今後他の施設も閉鎖や統廃合が進むと、事業継続が困難になる。									
「うるおいネットワーク」づくり	うるおいネットワーク推進事業	◇平湖・柳平湖の導水の検討ならびに周辺整備等の利活用について検討を行ってきた。 ◇（平湖・柳平湖については、公園緑地課により、緑の基本計画等に基づく周辺整備が行われてきた。） ◆引き続き、公園緑地課により、周辺整備が行われる。平成26年に完了予定	「うるおいネットワーク」を楽しむ市民が増える！	まちに「うるおい」があると思う市民の割合	%	目標値	—	26	28	30	96.0%
	河川改修事業（親水性河川整備事業）	◇伯母川の護岸改修工事を行った。 【H22年度】護岸工事 延長・173m 【H23年度】護岸工事 延長・99m ◆引き続き伯母川の護岸改修工事を進め、平成25年度の完成を目指す。				実績値	25.9	26.6	28.8	—	
	緑化を推進する市民運動展開事業	◇滋賀県緑化推進会のもと、春と秋に緑の募金を実施するほか、宿場まつりや緑化フェアにおいても実施した。H22年度に策定した緑の基本計画に基づき、市民への情報発信と緑化市民運動の展開として、市民活動団体・企業などの情報交換、交流を実施した。 ◆平成24年度からガーデニング推進事業を実施し、公共空間のガーデニングに取り組む市民サークルの活動により「ガーデンシティー草津」の実現を目指す。									

◆はつらつ草津の未来プロジェクト

リーディング施策	リーディング対象事業	第1期計画期間における取組み概要・成果実績、環境変化・今後の課題 【◇取組み概要・成果実績、◆環境変化・今後の課題】	目標像	指標名	単位		H21	H22	H23	H24	H23実績値／ H24目標値(%)
「草津ブランド」の強化	草津ブランド力強化事業	◇「あおばな」や「ホンモロコ」を市のブランドとして進めるべく、その認知度を高めるために、あおばなフェスタや水産まつり等を通じて啓発活動を行った。あおばなについては新たな関連商品も増えたことで、消費者のあおばなに対する認知度が向上した。ホンモロコについては、生産量自体に変動はなかったものの、取扱店舗を新たに2店舗加え、販路拡大を行った。 ◆ブランド化に導くための農産物の啓発・振興を図るべく、JAや県、生産者などと更なる連携強化を図りながら、流通や販売機能の開拓を図っていく必要がある。「あおばな」や「ホンモロコ」については、生産者の高齢化や近年の異常気象の影響等から、安定生産がむずかしくなっている。	「草津ブランド」の認知が高まる！ 草津に誇れるもの（ブランド）があると思う市民の割合	%	目標値	—	19.0	22.0	25.0	65.2%	
	草津ブランド推進事業	◇H22年3月に草津ブランド創設事業検討委員会において、「草津ブランドの創設」提言書がまとめられたが、草津ブランドとしての定着には至らなかった。 ◆H24年度に策定予定の「草津市シティセールス戦略プラン」において、観光資源や特産品などの素材を草津ブランドの一つとして活用できる具体的な戦略を立てる必要がある。									
	草津CI推進事業	◇平成23年度は、若手職員による検討チームを設置し、草津市の魅力を戦略的かつ効率的・効果的に発信するため、シティセールスのあり方について検討し、基礎調査報告書としてまとめた。 ◆“ふるさと草津の心（シビックプライド）”の醸成に向けては、平成24年度に策定予定の草津市シティセールス戦略プランを長期的に継続して実施していく必要があり、そのための仕組みづくりについても検討する必要がある。									
	農商工連携促進事業	◇商工会議所やJAなどの関係機関とともに会議を開催した。 ◆農業生産者側からの議論、取組である「6次産業化」（農林水産省）と、商工業、中小企業側からの議論、取組である「農商工連携」（経済産業省）とは、取組主体以外において、かなり重なる部分が多いことから、現在は、農業生産者側からの取組である「6次産業化」について、研究会を立ち上げ、その可能性を探っている段階である。									
					実績値	15.8	16.4	16.3	—		

リーディング施策	リーディング対象事業	第1期計画期間における取組み概要・成果実績・環境変化・今後の課題 【◇取組み概要・成果実績、◆環境変化・今後の課題】	目標像	指標名	単位		H21	H22	H23	H24	H23実績値／ H24目標値(%)
市内産業の集積・ネットワーク化の促進	工業振興事業	<p>◇市内製造業者の事業内容や優れた製品・技術等の情報を集約した草津市企業情報サイト「あうんです！」をH23年2月に開設し、全国に広く情報発信することにより、新たなマッチングの促進を図った。また、市内企業の様々なニーズに応じた各種支援業務を実施するために、草津イノベーションコーディネータを配置し、市内企業のニーズの把握とネットワークの形成を図り、企業間、企業と大学等のマッチングの促進を図った。</p> <p>【H22年度】登録企業数：87社、総アクセス数：14,912回、企業訪問件数：199件 【H23年度】登録企業数：111社、総アクセス数：50,352回、企業訪問件数：150件</p> <p>◆国内および市内産業の空洞化が懸念されているなど、市内製造業者を取り巻く環境が激変している中において、マッチングのさらなる促進を図るため、サイト登録企業数の拡大に努めるとともに、サイトアクセス数を増やすためのPR強化を行う必要がある。また、引き続き草津イノベーションコーディネータの配置により、市内企業の現況・ニーズを把握し、産学間、企業間、支援機関等との日常的な交流・連携を促しながら、国や県、市等の各種支援制度を効果的に案内する必要がある。</p>	新産業等が興る！	事業連携、産学連携数	企業(累計)	目標値	—	4	6	8	87.5%
	実績値	2				3	7	—			
	産業誘致推進事業	<p>◇付加価値の高い製品を製造する企業の集積に向け、滋賀県や各産業支援機関、金融機関等と密接に連携、情報共有を行い、積極的に誘致活動や市内への定着に向けた活動を行った。</p> <p>【H22年度】企業誘致数：0企業、創業・第二創業した企業の立地件数：11件 【H23年度】企業誘致数：1企業、創業・第二創業した企業の立地件数：18件</p> <p>◆国内および市内産業の空洞化が懸念されている現下の厳しい経済情勢の中において、企業立地助成制度の内容が県内他市の制度内容と比べて相対的に低く、企業誘致における都市間競争で劣勢の状況にあることから、新規工場立地のさらなる促進と市内既存企業の空洞化の抑制を目的とした制度の拡充について検討する必要がある。</p>									

リーディング施策	リーディング対象事業	第1期計画期間における取組み概要・成果実績・環境変化・今後の課題 【◇取組み概要・成果実績・◆環境変化・今後の課題】	目標像	指標名	単位					H23実績値／ H24目標値(%)	
						H21	H22	H23	H24		
滋賀の魅力拠点となる “まちなか”づくり	大江霊仙寺線整備事業	◇新草津川から県道大津草津線までの間、約737mの都市計画道路の整備事業（用地買収、建物等補償）を進めた。 ◆引き続き整備事業を進め、平成27年度の供用開始を目指す。				目標値	—	27.0	27.0	30.0	87.7%
	中心市街地再生計画推進事業	◇中心市街地の活性化を図る上で、必要な事業の洗い出しを行うとともに、計画エリアを定め、事業を抽出した。 H23年度に、行政と民間の取組みとの連携を図り、実効性の高い計画として「まちなかステップアップ計画」の策定を進めたが、事業を具体的に進め魅力的な“まちなか”づくりを行うためには、法に基づく「中心市街地活性化基本計画」が必要であるとの結論に至った。 ◆H24年度より中心市街地活性化基本計画を策定し、国からの支援を受け強気に事業を進めることとしている。今後は、計画事業の進行管理に努め、事業を実施する各主体が計画に沿って確実に取組み、基本計画に掲げる目標数値の達成を図る。									
	中心市街地活性化推進事業	◇中心市街地における「まちなか居住の推進」や「商店街の賑わい」など、地域の活性化を図るための事業を実施した。 ・中心市街地活性化推進事業補助金（草津街あかり事業、草津アート市など） ・空き店舗対策事業補助金 【H22年度】補助件数：4件 【H23年度】補助件数：2件 ・宿場街道景観形成事業交付金 【H22年度】交付件数：5件 【H23年度】交付件数：6件 ・まちなか交流施設「くさつ夢本陣」運営事業 ◆「中心市街地活性化基本計画」の策定に取り組んでおり、草津川跡地利用を含めて、中心市街地の活性化、まちなかの賑わい創出のための施策や事業を展開する必要がある。									
	公共交通対策事業（→地域公共交通活性化再生総合事業）	◇公共交通空白地の解消に向け、コミュニティバス（まめバス）を運行させることで公共交通の利用を促進、バス路線網を再構築、総合的な交通ネットワークを整備した。 ◆H24年度まで実施しているまめバスの実証運行において、運行路線の再構築を進め、更なる検討を図る。H25年度の本格運行に向けて、引き続き持続可能な運営システムを構築するとともに、継続が不可能な路線については代替案を検討する必要がある。									
	南草津駅新快速停車促進事業	◇粘り強い要望活動の結果、H23年3月12日より、南草津駅への新快速の全便停車が実現した。				実績値	26.3	26.2	26.3	—	

リーディング施策	リーディング対象事業	第1期計画期間における取組み概要・成果実績・環境変化・今後の課題 【◇取組み概要・成果実績、◆環境変化・今後の課題】	目標像	指標名	単位		H21	H22	H23	H24	H23実績値／ H24目標値(%)
「農」に親しむ 交流活動の促進	農業体験食育推進 事業	◇児童が農業への関心を高め、食べ物の大切さを学ぶことを目的とした「たんぼのご体験事業」は、市内13小学校全てで活動している。また、草津市手作り市民農園を運営し、農園利用者を対象に野菜作りの学習会を開催した。 ◆直売所での来客者数の増加や、大企業の社員食堂での地元産野菜の提供など、消費者の地元農産物への関心はさらに高まっている。学校給食センターの新設を契機として、学校給食で使用されるお米をすべて草津産米にするなど、地元食材の提供について農業団体等と調整を図る必要がある。	市内農業・農業者と交流を持つ市民が増える！	農業体験の参加者数	人 (延べ)	目標値	—	1,300	1,350	1,400	109.4%
						実績値	1,264	1,553	1,531	—	
草津の暮らしを楽しむ 観光プロデュース	着地型観光推進事業	◇地域資源を活用した観光行事や祭り等の事業に対して支援を行い、交流人口の拡大を図った。（「藤の志那三郷創造事業」、「草津ヨシ松まつり」） ◆さらなる交流人口の拡大に向けて、既存事業に対する支援を引き続き行うとともに、観光ボランティアガイド等の活用により、新たな地域資源の発掘や情報発信に取り組む必要がある。	草津市に観光で訪れる人が増える！	観光入込客数	千人	目標値	—	1,850	1,900	1,950	89.5%
	観光宣伝事業	◇宿場まつりや熱気球搭乗体験事業等の誘客イベント活動を支援するとともに、草津宿本陣や水生植物公園みずの森等、地元の観光資源を活かしながら、草津市の魅力をさらに全国へ情報発信するため、観光誘致ポスターの掲示や観光誘致キャンペーンなどの観光宣伝活動に取り組んだ。 ◆東日本大震災の影響により、本市においても観光入込客数が減少した。 湖南地域における広域連携型の観光ルートの開発など、限られた観光資源の中で新たな魅力をつくり、観光客誘致に取り組む必要がある。				実績値	1,800	1,862	1,746	—	

◆市民が学んで築く地域プロジェクト

リーディング施策	リーディング対象事業	第1期計画期間における取組み概要・成果実績、環境変化・今後の課題 【◇取組み概要・成果実績、◆環境変化・今後の課題】	目標像	指標名	単位		H21	H22	H23	H24	H23実績値／ H24目標値(%)
子どもの育ち・ 学びの応援	学力向上重点事業	◇小中学校への新学習指導要領導入に伴い、児童生徒の「生きる力」をさらに育んでいくことを目的に、国語力の充実をはじめ、英語力の向上、理数教育推進を柱として取組みを進めている。 ・国語力向上事業：作文指導で書いた作品を表彰 ・英語力向上事業：小中学校に英語指導助手を配置し活用 ・理数教育推進事業：コアサイエンスプログラムと電子黒板を活用した指導	草津の子 どもは学 校が好き である！	学校評価ア ンケートに よる「学校 は楽しい」 の割合	%	目標値	—	81.0	83.0	85.0	100.0%
	学校教育モデルプラン推進事業	◇各学校が、モデルとなる教育活動を展開し、互いに高まりあいながら教育課程を発展させる。 児童生徒が将来への夢や社会への関心を広げ、学習意欲を高める契機とするため、各分野で活躍されている方による特別授業（各界トップのスペシャル授業）を実施した。 ◆さらなる内容の充実を図るとともに、学校教育モデルプランを推進する中で、各校の教育活動を活性化させ、それぞれの学校の教育目標の達成に向けての有効な手がかりにしていきたい。				実績値	80.0	87.5	85.0	—	
	保育サービス事業	◇待機児童の解消に向けて、私立認可保育園整備により、保育定員210人の増加を図った。また、多様な保育ニーズに応えるために、一時預かり、休日保育、特定保育等の特別保育の拡充を図るとともに、家庭的保育事業に着手した。 ◆保育需要の伸びに対応し、待機児童解消に向けた施設整備を平成24年度に重点的に行うとともに、今後も保育需要の推計や必要な特別保育のニーズ把握を継続し、適切な保育サービスの提供を行っていく必要がある。また、保育サービスの向上のために、保育所・幼稚園の施設環境の更新を引き続き行うとともに、質の高い幼児教育と保育の一体的提供に向けて検討を行い、本市の実情に応じた幼保一体化を推進する必要がある。									
	子育て支援事業	◇子育て世代の支援のため、交流の場所としての「つどいの広場」を増設するなど、各種事業を展開した。子育て支援センターでは、子育てをしている保護者と就学前の子どもの遊び場の提供や育児相談、子育てに関する様々な情報提供、サポートを行った。 H24年度から南草津に地域子育て支援センターを開設し、子育て支援機能の充実を図った。また、H23年度に開設した子育て応援サイトの充実を図るとともに、情報の発信に努めていく。 ◆子育てに不安や負担を感じている子育て家庭が多い中、地域の子育て支援団体等との連携を図り地域の子育て力の向上を図るとともに、子育て応援サイト等を活用しながら、有効な子育て情報を発信する必要がある。 また、児童虐待相談件数やひとり親家庭の数が増加傾向にあることから、相談体制や支援の充実を図るとともに、子育て家庭の経済的負担の軽減を図る必要がある。									

リーディング施策	リーディング対象事業	第1期計画期間における取組み概要・成果実績、環境変化・今後の課題 【◇取組み概要・成果実績、◆環境変化・今後の課題】	目標像	指標名	単位		H21	H22	H23	H24	H23実績値／ H24目標値(%)
地域と大学が連携するまちづくり	共同研究推進事業	<p>◇立命館大学と草津商工会議所との連携のもと、「南草津のまちづくりに関する調査研究」を共同研究として実施した。 H21年度に締結した「草津市と立命館大学とのサービスラーニングに関する協定書」に基づき、立命館大学の学生主導のもとサービスラーニング事業を進めた。 滋賀県内に立地する13大学と自治体等が加盟する「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」にて共同事業を実施した。</p> <p>◆H23年度より立命館大学との共同研究を進めているが、大学側の連携窓口が不明確であることなどから、円滑な事業実施を難しくさせる場面が見られ、立命館大学等との連携協力の課題がある。 H27年度に予定されている立命館大学経営学部等の茨木キャンパスへの移転問題を含め、大学と地域との連携のあり方についてのビジョンが求められる。</p>	市民の地域活動に関わる学習・行動意欲が高まる！	立命館びわこ講座の受講者数	人	目標値	—	240	270	300	55.3%
	実績値	204				205	166	—			
	子どもアスリート体験事業	<p>◇小学生を対象に、トップアスリートから、体を動かす楽しさや技術を習得する喜びなど、スポーツの根源的な楽しさを教えてもらうことで、「スポーツ大好き！」の気持ちを芽生えさせるきっかけになることを目的として実施した。 【H23年度】参加者数：94人</p> <p>◆H23年度は、あまりスポーツになじみのない子どもたちへのきっかけづくりの事業であったが、H24年度は既にスポーツをしている子どもたちに対して、生涯にわたってのスポーツ継続を促す事業を実施する。また、H23年度に加え、H24年度についても、当初計画をしていた、立命館大学の運動部との連携はなかったが、今後、事業内容を検討する中で、立命館大学の運動部に協力をいただく方法も検討していく。</p>									

リーディング施策	リーディング対象事業	第1期計画期間における取組み概要・成果実績・環境変化・今後の課題 【◇取組み概要・成果実績・◆環境変化・今後の課題】	目標像	指標名	単位		H21	H22	H23	H24	H23実績値／ H24目標値(%)
地域学習社会における “新しい段階の” 市民自治づくり	地域協働合校推進事業	<p>◇学区・地区および小・中学校において、子どもと大人が体験的な学習を通して関わり合う事業や学校の授業やクラブ活動等に地域の方やボランティアの支援をさせていただきながら事業を行った。</p> <p>・地域協働合校推進事業参加者数：【H22年度】141,780人、【H23年度】149,141人</p> <p>◆地域の教育資源（人・もの）の掘り起こしや、人や情報をつなぐ等のコーディネーターの充実および子どもたちが事業への参加するだけでなく、企画段階から参画できる事業の推進が必要である。</p>	市民主役のまちづくりが進んでいる！	市民主役のまちづくりが進んでいると思う市民の割合	%	目標値	—	22.0	26.0	30.0	67.3%
	提案型協働のまちづくり活動事業	<p>◇課題解決や新しい価値の創造から公共サービスの充実につなげるため、地域で活動する市民公益活動団体から企画提案を募集し、市と協働で事業を進める「市民まちづくり提案事業」をH22年度から実施した。H22年度は市があらかじめテーマを設定する「応募型」に限定し、2テーマに対する募集を行った。H23年度は応募型6テーマに加え、市民の自由な発想により提案いただく「創造型」の募集形態を追加した。</p> <p>・市民提案件数：【H22年度】3件、【H23年度】11件</p> <p>・市民提案の事業化数：【H22年度】2件、【H23年度】8件</p> <p>◆協働事業の提案件数は年を重ねるごとに増加するような性質のものではなく、他市事例等を見ても、2～3年でピークを迎え、制度を続けていくと減少していく傾向にある。「応募型」のテーマ数増加や応募団体の要件緩和により、提案件数および事業化件数を維持させる。</p>				実績値	17.3	16.3	20.2	—	
	地域協議会推進事業	<p>◇新しい住民自治の仕組みである「まちづくり協議会（地域協議会）」の設立に向けた取組みや設立後の運営に対し、支援を行った。</p> <p>・H23年度までのまちづくり協議会設立数：11学区・地区</p> <p>◆まちづくり協議会の活動拠点として市民センター（公民館）を位置づけ、防災や福祉、まちづくり講座等、様々な分野において地域独自の取組みを展開していただけるよう検討をしている。</p>				実績値	17.3	16.3	20.2	—	

リーディング施策	リーディング対象事業	第1期計画期間における取組み概要・成果実績・環境変化・今後の課題 【◇取組み概要・成果実績・◆環境変化・今後の課題】	目標像	指標名	単位		H21	H22	H23	H24	H23実績値／ H24目標値(%)
地域の 「福祉力」の向上	「(仮称)地域福祉コーディネーター」設置事業	◇地域福祉コーディネーターを配置することで、つなぎ機能を強化することにより、地域との連携をより深めた。 ・H23年度に地域福祉コーディネーターを草津市社会福祉協議会に2人配置 ◆地域での課題解決に向けて、住民同士、住民と団体、団体同士をつなぐ機能の強化を図るために地域福祉コーディネーターを配置していることから、今後も積極的に地域に入り込み支援する必要がある。また、市民コーディネーターの育成指導の役割も必要となる。	地域の「福祉力」が強化される！	地域福祉コーディネーターの配置人数	人	目標値	—	0	13	13	15.4%
	地域高齢者見守り事業	◇各学(地)区社会福祉協議会で策定される住民活動福祉計画策定において、独居高齢者等の見守りについて検討していただき、組織づくりに取り組む予定であったが、災害時要援護者避難支援制度の取組みが開始されたこと等により、見守り隊組織の計画は見送られた。 地域においては、民生委員や福祉委員が独自に見守り活動を行っているが、市でも地域サロンや老人クラブに対する支援を積極的に行い、見守りのネットワークの網の目を細かくするよう努めている。 上記のほか、独居高齢者宅等に緊急通報システムの設置や、認知症による徘徊症状のある高齢者の所在を探索する機器の無償貸与、認知症サポーター養成講座の開催などで一定の成果をあげている。				実績値	0	0	2	—	
地域の 防犯・防災力の強化	防災対策事業	◇災害時の情報伝達体制を確立・強化するため、市内一斉緊急放送システムの整備や防災行政無線のデジタル化を行い、防災倉庫や防災備蓄の増強等を進めた。 ・学区・地区別防災マップの更新 【H21】矢倉学区・玉川学区・笠縫学区【H22年度】草津・笠縫東学区 【H23年度】大路・渋川・山田学区 ・市内一斉緊急放送システムの整備：79箇所 ・防災行政無線のデジタル化 ・地域防災計画の見直し、原子力災害対策編の策定 ・防災備蓄倉庫の整備 8小学校(志津、志津南、草津、矢倉、南笠東、山田、笠縫東、常盤) ・災害用トイレ整備 190基(洋式120基、障害者用35基、小便器35基) ・応急給水体制整備(浄水装置3台、仮設給水栓9台) ・放射線測定器整備(空間線量測定器1台、表面汚染測定器1台) ◆東日本大震災発生後、住民の防災意識の向上が見られ、各町内会や学区地区のリーダーを中心に、災害対策・減災対策の取組みの強化が図られている。一方、依然として取組みの進まない町内会等もあり、両者に大きな隔たりが生じている。 市域全体のレベルアップを図っていくためにも、これまで取組んできた、市民防災員の養成、自主防災組織の活性化の取組みに加え、学区・地区全体にスポットを当てた事業を展開することで、活動の活発でない団体も含めて防災対策の取組み強化を図っていく。	地域の防犯・防災力が高まる！	地域の防犯・防災力が高いと思う市民の割合	%	目標値	—	23.0	25.0	27.0	85.6%
						実績値	20.8	19.1	23.1	—	